

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214303		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホーム つなぎの里 (うさぎユニット)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	H29年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	H29年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は自然に囲まれた地域にあり、人と人とのつながりを大切にしながら、入居者や家族・地域の方との交流や生活を送る事ができるよう日々、取り組んでいる。
 毎月1回は季節に合わせた行事を取り入れ、入居者の負担にならない程度の行事を考えている。行事の中には他施設へのお祭り参加や、畑作りや花壇植え、年2回の家族会、2年に1度の地域交流会などを実行しており、入居者・家族・地域の方々楽しんで参加していただけるよう、取り組んでいる。
 運営推進委員会の意見や家族アンケート、また入居者からの意見・相談を大切に、ホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台にあり、居室やリビングの窓からは、田畑や山並みの景色が広がっている。入浴では沢山の入浴剤を用意しており、色や香りなどを楽しく入居者に好評である。また、昨年、レクリエーションを月に2回、行事委員が企画し継続して実行するなど、ミーティングでの話し合いが活かされている。その他、月に1回、音楽療法の先生を呼び、歌に合わせて様々なことを行っている。入居者から、事業所を家のように、そして職員を家族のように思ってもらえるよう、全員で考えながら日々の生活を作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である“人と人とのつながりを大切に、穏やかで、楽しい里でありたい”を共有し、実践につなげている。また事業所内へ掲示し、取り組みや理念の見直し等ミーティングで行っている。	理念は、廊下、ホール、事務所、玄関など、いたるところに貼られており、職員が困った時は理念に立ち返って判断出来るようにしている。ミーティングでも理念について話し合っており、昨年は、理念に付け加えを実行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域交流会を2年に1回、また家族会を年に2回企画し、交流の場を設け、入居者や家族の方との関係を作れるよう取り組んでいる。	幼稚園の園児が、敬老会やクリスマス会などで来所し、歌や踊りの披露があったり、家族会の際に地域のボランティアによる踊りの披露があるなど、地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民からの相談や問い合わせがあった際は、その都度対応している。また運営推進会議を生かし、ホームの状況など報告し、意見を取り入れ情報交換など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、意見や提案があった際は、スタッフミーティングの際に報告し、話し合いを行い、今後のサービス向上に努めている。	運営推進会議では毎回、家族代表、地区会長、民生委員や市役所職員などが参加している。事業所の現状や行事、ヒヤリハット等報告の他、質疑応答を行っている。会議での情報は、ミーティングで職員が共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市の福祉課職員に参加していただき、情報交換や助言などにより、その内容を職員間で共有し実践に取り組んでいる。	運営推進会議に参加してもらったり、介護保険関係や、必要な情報について教えてもらうなど、市役所職員とは良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員を中心とし、身体拘束をできるだけ行わないようなケアに取り組むよう、勉強会などを行ない、職員の意識を高めるよう務めている。	リスク委員会では、事故報告やヒヤリハット報告のまとめ、身体拘束防止に向けてのケアの見直しを行っている。また、昨年「経過観察・再検討記録」を作成し、身体拘束対象者に関して、ミーティングで話し合っている内容を記録で残すようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して、職員一人ひとりが注意し、内部研修を行う事で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立援助事業について、現在1名の入居者が利用しており、必要な入居者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族などの不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い、理解し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には意見箱の設置や年1回のアンケートで意見や要望を汲み取り、ミーティングで話し合い、今後の改善に向けた取り組みを行っている。また、入居者には、日常のさりげない会話から思いや要望を聞くよう努めている。	入居者からは、日常会話の中から希望を引き出したり聞いたりしている。家族へは毎月「生活のようす」のお便りを送付して意見を聞いたり、面会時などに希望を聞いている。1年に1回の家族アンケートは、集計して職員で共有している。	家族アンケートを始めてから数年が経過している。家族側からの何気ない疑問や、意見などが聞けるよう、アンケート内容や項目について、更なる工夫が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや申し送りを通して、意見を出し合い、職員から出た意見は、管理者から代表へ報告し、運営に反映できるよう努めている。	職員は、管理者と話しやすい関係にあり、ミーティング時以外も、気が付いた時に相談や提案を伝えていく。必要なことは代表者へ伝えて設備等の購入につながっている。また、昨年からのレクリエーションは月に2回、行事委員が話し合っって企画を決め、継続して行っている。その他にも月に1回、音楽療法を取り入れるなど、積極的に提案を実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表へ、労働時間や勤務状況など報告しており、必要な環境整備を行っていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や、協会などの研修へ、計画的に参加し、スキルアップに努めている。また研修報告書の提出や報告を、ミーティングにて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、地域の活動として各事業所の集まりである“ほっとネットニツ井”にも参加し、情報交換や研修への参加など交流を通じた向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話しに耳を傾け、安心して生活できるようにしている。入居者同士の会話からも、情報を得る事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの場を設け、いつでも相談できるよう雰囲気作りを心掛けている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じテーブルで一緒に作業したり、食事をしたり、入居者からも学びながら支え合っているよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など近況報告など行い、家族とコミュニケーションを図り、情報を得ている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先や受診時に顔見知りと会われた際は、職員が間に入り、支援に努めている。	入居者の希望で家族へ電話をかけたり、自宅へ帰ったりしている。家族や親戚の他、近所の知り合いが面会に来所した際は、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、共同作業ができるように職員も間に入ったりと支えあう関係作りに努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて、継続した関りを支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話より、希望や意向の把握に努め、家族からの話しなどを元に、その人らしい暮らしができるよう努めている。	特に入浴時や受診時に、職員と1対1になった時は、多く話されることがあるが、日常の会話の中からも入居者の思いや意向を聞くことが出来ている。上手く話せない入居者には毎日声掛けをしたり、家族の情報から本人の思いにつながるものを得ている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりの情報、アセスメント記入等からスタッフが共有できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、記録の記入、毎日の申し送り等、一人ひとりの現状を話し合い、スタッフ皆で共有できるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れ、またスタッフで意見を出し話し合い、介護計画書の作成をしている。	介護計画作成の際には、日常会話から得た本人の希望や、面会時に家族から聞き取りした意向、カンファレンスで出た職員の意見を参考にして計画を作成している。遠方の家族へは、お便りで計画の内容について確認している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果を記録し、情報を共有しながら見直しが必要な時は、カンファレンスやミーティングで話し合い、介護計画書に取り入れている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園等と交流を持ち、地域での祭り等(ふれあい祭り、駒踊り)に参加する事で、地域との関わりが持てるように取り組んでいる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添えるように努力しており、個人の状態や病状について適切な医療や看護が受けられるようスタッフ間、家族、かかりつけ医との連絡や話し合いを持っている。	入居者のほとんどは、以前からのかかりつけ医を受診している。職員の付き添いで受診し、緊急時以外の受診結果については、月に1回のお便りで家族へ報告している。また、職員は申し送りなどで情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者が適切な医療、看護が受けられるよう、日々、観察に努め、スタッフ間での話し合いを豆に行い、かかりつけ医、家族と連絡を取り合っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日の状態把握に努め、管理するとともに、関連病院、かかりつけ医、家族との相談や情報交換が行えるような関係作りに努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医とともにチームとして支援に取り組んでいる。ミーティング、カンファレンスで重度化終末期での良いケアの仕方を話し合っている。	入居時、入居者及び家族に重度化や看取りについての指針の説明を行い、同意をもらっている。また、職員は終末期についての研修を行い、より良い対応が出来るようにしている。本人の状態の変化に合わせて、話し合いを重ね、計画の立て直しを行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回のミーティングで急変時や事故発生時慌てず対応できるように勉強会などで、知識の向上を図っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方に協力をお願いしている。年2回の避難訓練を行ない、ミーティングの際に避難方法について話し合っている。	事業所は高台にあるため、水害の心配はなく、主に昼夜の火災想定での訓練を行っている。事業所から少し道を降りたところには、新しく消火栓が設置されたため、今後の避難訓練の際に検討していく。非常食については、日々のメニューに取り入れるなどして、期限が切れないようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応はしていない。	普段の言葉掛けでは、地元の方言なまりを大切に、堅苦しくならないよう、伝わりにくいことのないように気を付けて会話している。昨年は言葉遣いについての研修を行っており、日々の会話に活かされている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、傾聴、声掛けなどにより希望を表しやすい環境作りを心掛け、自己決定の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、自分のペースでゆっくりと過ごしていけるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用や利用者の意向に沿った服選び等を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方ができる簡単な作業を一緒に行っている。一人ひとりの好みや状態に合わせた盛り付けや形状にしている。	野菜の下処理や盛り付け、食器の後片付けなど、食事に関することを行っている。メニューは同じ献立にならないよう、職員で話し合い、入居者の希望も取り入れながら決め、行事の際は行事食を提供している。刻みやミキサー食にも対応している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時、毎食後に口腔ケアをしている。必要に応じて、夜間義歯を洗浄剤に漬けている。常時見守りを行い、必要時には介助している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事、水分チェック表にて、ここの摂取状況を把握している。各自の状態に合わせて飲み物や食事を提供している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え時、時間でのトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を使用し、各自の排泄状況を把握している。	排泄チェック表を活用し、出来るだけトイレでの排泄に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、軽い運動等で、予防に努めている。下剤処方の方へは、排便状況を把握し、必要に応じて調整を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態に合わせて週3~4回の入浴を行っている。足の清潔保持が必要な方には、毎日足浴を行っている。	入浴は1対1で行うため、入居者の若い頃の話や思っていることなどを聞くことができる。入浴を好まない方へは、促す職員や時間を変えてみたりしながら声掛けの工夫で入浴出来ている。足の皮膚疾患のある方へは毎日足浴を行っている。入浴剤に関しては多数、種類を揃えており、色や香りなど入居者に好評である。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子を見て、休息したり、安眠できるように日中の活動や外出を支援している。安心していただけるよう心のケアや生活環境を整えている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等理解するようにし、わからない事は、看護師に相談できる体制を作っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付け、洗濯物干し、たたみ等行っていただいている。季節ごとの行事や食事、外出など気分転換できるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望での外出は少ないが、美容院への希望や買い物等はスタッフの同行や代行にて行っている。散歩等希望があれば同行している。	家族との買い物や自宅への帰宅の他、以前から利用していた美容院へ継続して通っている方もいる。週に2回の食材の買い物の際、入居者が同行することもある。また、行事では季節を感じられる場所などへ外出し、その写真1年分を廊下に貼っており、入居者はそれを見て思い出したり出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、使える入居者に対しては、所持してもらっており、買物などはスタッフが代行している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望がある際は、対応している。手紙等届いた場合も本人へ手渡している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や消毒を行ったり、温度調整やトイレの臭いなどにも気を配っている。	ホールにはカレンダーや、入居者が作成した貼り絵などが貼られ、テーブルや椅子の他、ソファでゆっくり過ごされる方もいる。入居者同士の関係等も快適に過ごせるよう配慮している。掃除は職員の掃除機掛けの後に入居者がモップ掛けを行うなど、出来る事はやってもらえるよう努めている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で食卓やソファに座っていただいたり、テレビを見たい方には、テレビが良く見える場所に移動していただいたり、居場所の工夫を行っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや置物、写真等をおき、心地よく過ごせるようにしている。	各部屋に湿度温度計があり、冷暖房も各部屋ごとに調整を行うことが出来る。冬季は各部屋に加湿器が設置される。壁には家族の写真や手紙が貼られていたり、ぬいぐるみやテレビ、自宅で使用していた布団などが持ち込まれている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレ、風呂場へ移動しやすいように手すりを設置し、場所がわかるように目印をつけている。夜間も暗くならないように、適度に照明をつけている。		